

平成30年度 学校評価表

品川区立台場小学校

校長 木村 已典

台場小学校校区教育協働委員会

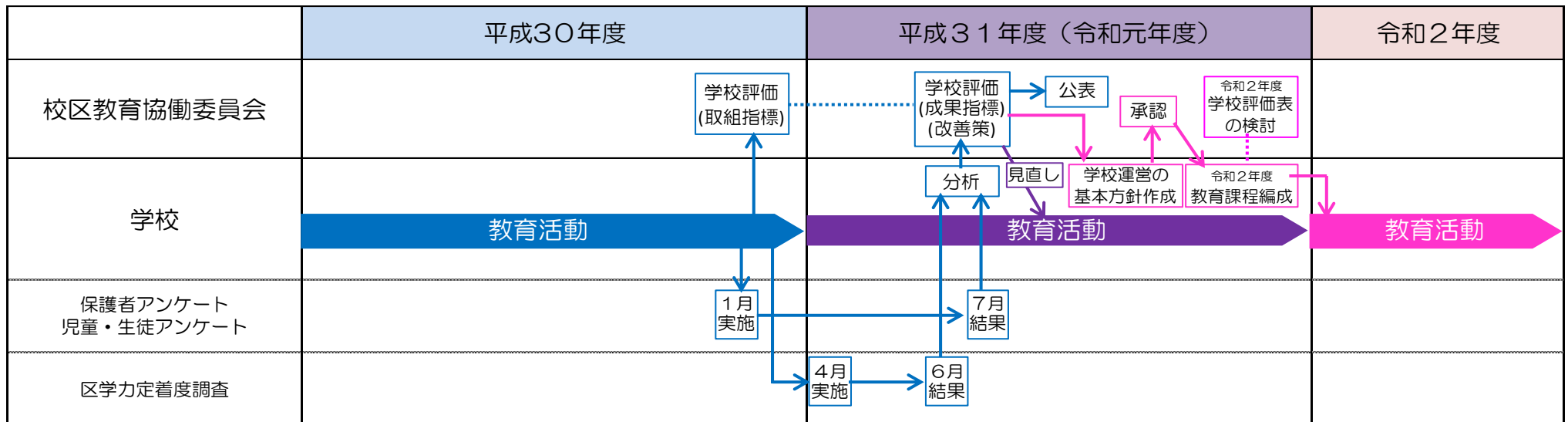
委員長 酒井 朗

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成30年3月30日教育長決定要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成30年度の学校評価が平成31年度（令和元年度）および令和2年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目 1 (学力に関すること)

重点目標		○各教科の学習内容で、基礎基本となる知識や技能の定着を図る。 ○自ら学ぼうとする意欲、学習態度を大切にして、子どもたちの学習に取り組む姿勢を全校体制で構築していく。 ○教師の指導力を向上させる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査では、標準スコアを各学年で上回る。	・4年生は国語・社会・算数・理科において、標準スコアを上回っている。2・3・5・6学年は、区学力定着度調査 標準スコアを若干下回っている。	C	【課題】基礎・基本の学力の定着を図る。算数では、習熟度別少人数学習を3年生以上で行っているの で、標準スコアに近く、おおむね良好といえる。国語は3つの 学年で、標準スコアを下回っており、学力を向上を図る必要が ある。 【改善策】 ・朝帯学習において、漢字の学習を行っている。家庭学習帳 で、担任と家庭の情報交換を行っている。基礎・基本の知識・ 技能を定着させるために、家庭学習も充実させていく。 ・単元テストで、定着できていない問題について、返却時に説 明を行っている。類似の問題を繰り返し、行うことで、定着を図 るようにする。
	・個に対応した指導を行うために、算数少人数指導や放課後の個別学習を充実させる。特に放課後に関しては、月に1回「補習日」を決めて個別指導に取り組む。また、土曜日にも活用し、副担任もT、Tとしての指導や教材作成にあたり、繰り返しの学習を行う。	算数少人数指導、「補習日」を設けての放課後の個別学習に取り組んでいる。土曜日は行事が入ったりするなどして、副担任が入ることが難しいが、教材作成など副担任も積極的に関わっている。	B	
	・登校したらすぐ取り組む帯学習(朝学習)で、学習習慣の定着を図るとともに、漢字の読み書きの知識や技能の定着、読書活動などを推進する。	ふだんは漢字の読み書きを行い、読書週間には読み聞かせや読書を行い、学習習慣の定着を図っている。	B	
	・学期末テストにおいて、再テストも含めて、平均80%以上とする。	学年末テストを行い、平均80%になるよう、繰り返し行った。	B	
②	学習規律を守って学習しようとする児童をクラスの80%以上とする。	1年生・5年生に授業に集中できない児童が数名いるが、多くの児童が、学習規律を守って授業に取り組もうとしている。	C	【課題】多くの児童は、学習規律を守って、学習に取り組んでいる。特別に配慮、支援を要する児童の学習意欲の向上を図ることが課題である。 【改善策】 ・年度始めに、学習規律、台場メソッドについて全教員で共通理解を図っている。学習規律で不徹底なところがあるので、徹底を図る。 ・学習活動の中で、授業の見通しをもたせると共に、話し合い活動の時間を取ることで、主体的に学習に取り組めるよう工夫する。
	・「話を聞く」「授業の始めと終わりのあいさつ」「鉛筆を削る」等、学習規律を徹底する。	「鉛筆を削る」については、携帯用の鉛筆削りをもってきている児童がいたところもあったので、学習規律を徹底していく。	B	
	・各教科、領域を通して、問題解決学習(課題把握、予想、自力解決、話し合い、まとめ、習熟・活用)の学習展開(台場メソッド)を実施し、書いたり説明したりする思考力や表現力を育てる。	年度始めに台場メソッドの説明を行い、年度初めから全クラスで取り組めるようにしている。	B	
③	教師の指導力を向上させる。	校内研究や研修を行い、教師の指導力向上に努めている。	B	【課題】教師の指導力を高めるために、校内研究、研修に努めている。児童の基礎・基本の学力を更に向上させるための手立てを、工夫していく必要がある。 【改善策】 ・デジタル教科書、書画カメラなど、ICT機器を使った学習を行っている。高学年では、タブレットを使つての学習も行う。児童が、楽しく、基礎基本の学力が身につくようなタブレットの使い方を工夫していく必要がある。また、低学年においては、具体物を提示したり、操作したりして、より興味をもたせる指導方法を工夫していく。
	・学習のねらいを児童に提示して、理解させている。	授業の始めに学習のねらいを提示している。	B	
	・「聞く」「考える」「書く」「発表する」「話し合う」「まとめる」など様々な学習活動を授業に導入している。	「聞く」「考える」「書く」「発表する」「話し合う」「まとめる」など様々な学習活動を授業に導入している。	B	
	・具体物を提示したり、視聴覚機器を利用したりなどの授業の工夫をしている。	具体物を提示したり、視聴覚機器を利用したりなどの授業の工夫をしている。	B	
	・研究授業、研修、品川学園との合同研修など研究・研修に努めている。	校内研究、市民科研修、プログラミング研修などの研修の機会を設け、研究・研修につとめている。初任、23年次研修は6・11・2月に行うことに決め、計画的に行っている。	B	

平成30年度 学校評価 品川区立 台場小学校
 評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		○各教科、市民科での授業を中心に、日常生活や学校行事、保幼小交流活動の中で、人権尊重教育を通して自己共に大切に、相互に認め合える態度や能力を育て、支持的風土を構築する。 ○家庭、地域、保育園・幼稚園、連携中学校と連携し、規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着のために、重点化した取組を推進する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	人権にかかわる知識や態度を身に付け、自己を大切にするとともに、友達や、異学年・園児に対して、優しく接している。	障害のある人に対する接し方、異学年・園児に対する接し方は考えて行動している。友達に対する接し方で課題のある児童もいる。	B	【課題】 人権学習会、オリンピック・パラリンピック学習における、障害者スポーツ理解の学習で、障害のある方への接し方、異学年交流で園児との接し方をしている。また、人権委員会による集会や人権ジャーの活動で人権意識を高める活動を行っている。しかし、クラスの中で、心無い言動があることも確かであり、人権にかかわる言動を更に向上させていかなければならない。 【改善策】 ・人権教育指導計画を児童の実態に応じて、見直し、精選していく。教員が、高い人権感覚を養い、機を逃さず指導をしていく。 ・生命尊重教育を充実させるために、低学年を中心に動物と触れ合ったり、獣医師の先生から動物飼育についての学習をしていただく。
	・各教科、市民科及び全教育活動を通して、人権教育指導計画を精選しながら人権に関わる知識や価値・態度、技能を身に付けさせる。 ・異学年の縦割り班による「清掃・給食・遊び」活動を推進したり、のびっこ園台場保育園、幼稚園や近隣の八つ山保育園との交流活動を行ったりして、自己有用感を高め育成する。	全校の活動として、土曜授業の日に、いじめ防止バッジをつけるなど、人権意識を高める活動をしている。 縦割り班活動を毎月行うことで、異学年間の交流が深まっている。また、幼稚園・保育園交流も年度当初に計画をたて、計画通りに進めている。頼られる経験が自己有用感につながっている。	B A	
②	学習規律・生活規律を守ることを、全児童の100%が意識して学校生活を送っている。	学習規律・生活規律を守ることを意識できていない児童が若干いる。	B	【課題】 多くの児童は、チャイム着席を心掛けたり、委員会活動・当番活動など自分の仕事分担に責任をもって取り組んでいる。しかし、学習規律・生活規律を守れない児童が若干名いる。その児童が目立ってしまい、学校が落ち着かないように見える。 【改善策】 学年として、落ち着かない児童を見るだけでなく、高学年団として、より多くの目で指導を行う。また、活躍の場を設け、達成感・満足感を高め、自己有用感をもたせる。
	・週の生活目標に加え、学級ごとに週目標を設定し評価し、改善しながら、「校帽、あいさつ、まもるっち」の徹底、「正しい廊下歩行」、「時と場に応じた言葉遣い」「時間を守る態度」「係活動や清掃活動」等に取り組む児童の育成を図る。	全校朝会で週番長が伝えた週目標を、各学級で話し合いより具体的な目標にして、児童の育成を図っている。	B	
③	自分からあいさつをしたり、場に応じた言葉で受け答えができる。	自分からあいさつができる児童は少ないが、声をかけるとあいさつを返す。多くの児童が場に応じた言葉で受け答えができる。	B	【課題】 あいさつ隊の活動を計画的に行っている。教員が声をかけるとあいさつが返ってくる。相手の目を見て気持ちの良いあいさつができるように育てたい。 【改善策】 ・あいさつの意義やあいさつをした時の気持ちよさなど、学級で繰り返し担任から話すとともに、週番の担当教員が、気持ちの良いあいさつができる児童を称賛していくようにする。
	・教員が率先して、あいさつに取り組む。	週番の担当教員が毎朝、昇降口にたつて率先してあいさつに取り組んでいる。	A	
	・計画的にあいさつ隊の活動を行ったり、委員会活動で児童が、自主的なあいさつ推進を行ったりして、全学年にあいさつへの意識を高める。	計画的にあいさつ隊の活動に取り組むことができている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標		○体育、健康教育全体計画に沿って、体育科における授業の充実を図る。 ○個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。 ○安全指導計画に沿って、校外の生活、交通安全や災害、不審者対応など様々な危機を想定しての安全指導や体験的な訓練を行い、生命を守ろうとする態度や知識、技能を身に付けさせる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	都の体力調査の各種目の平均を上回る。	50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げは平均を上回っている学年が多い。握力、長座体前屈、反復横跳び2mシャトルランは下回っている学年が多い。	B	【課題】 体力向上を目指し、各学期に、短なわとび、長縄跳び、持久走など計画的に行っているが、平均を下回っている種目がある。 【改善策】 校務分掌内の特設体育部 体育領域部会において、重点指導項目を検討し、体育の授業で、指導していく。
	・一校一取組の「マラソン週間(学期1回)」「なわとび週間(学期1回)」「チャレンジジャンプ(学期1回)」「体力向上週間(品川スポーツトライアル)」において、自己目標・学級目標を設定しその達成への取組を継続し、児童のバランスの取れた体力向上を図る。	チャレンジジャンプは、縦割りジャンプとして、縦割り班で取り組んでいる。体力向上週間には運動委員会の児童が中心になって全校でスポーツトライアルに取り組んでいる。	A	
	・東京都体力向上調査結果を分析、評価し、指導の重点や授業の改善を明らかにし、特に、体づくりの運動や水泳領域等の体育実技研修を開催し指導の充実を図る。	水泳の実技研修などを行い、指導の充実を図っている。	B	
②	食物アレルギー事故ゼロとする。	平成30年度食物アレルギー事故ゼロ	A	【課題】 幸いにして、平成30年度の食物アレルギー事故はゼロである。今後も、食物アレルギー事故0が続くようにしていく。 【改善策】 年度当初に学校薬剤師によるエピペンについての説明とエピペントレーナーを使用した事故発生時のシミュレーション研修を行ったり、個に応じたアレルギー対応献立表を教室内の分かりやすい位置に掲示したりしている。今後も、事故を起こさないよう意識を保っていく。また、いざというときに慌てないようマニュアルをアレルギー献立表とともに掲示しておく。
	・児童のアレルギー疾患に関する知識を深める研修および「食物アレルギー対応の手引き」に関する実践的な研修や事故発生時のシミュレーション研修を行う。	年度当初に学校薬剤師によるエピペンについての説明とエピペントレーナーを使用した事故発生時のシミュレーション研修を行った。	A	
	・個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。	個に応じたアレルギー対応献立表を教室内の分かりやすい位置に掲示するとともに、給食の受け渡し時にチェックし、一番最初に配膳し、事故防止を遵守した。	A	
③	「交通に関する事故件数0件」を目指す。	平成30年交通に関する事故件数2件	B	【課題】 ・歩道を歩行中に、後ろから来た自転車と接触した事故があった。 ・自転車に乗る時には、ヘルメットをかぶる児童が増えてきているが、時々、ヘルメットをかぶっていない児童を見かけ、指導している。 【改善策】 ・春、秋の交通安全週間時、長期休業前など、交通安全指導の徹底を図る。
	・安全指導で、交通安全教育を徹底し、交通ルールを守らせるとともに、ヘルメットの使用率を高める。	8日間チャレンジに全校で取り組み、交通ルールを守ること、ヘルメットを着用することの必要性を指導した。3年生が自転車教室を実施し、交通安全教育を行った。	B	

評価項目4 (いじめ防止の取組に関する事、安全に関する事)

重点目標		○「いじめ」という人権侵害の防止を徹底し、差異を認め合える人権教育を推進する。 ○いじめの早期発見や早期対応、解決に努める。 ○保護者、家庭と連携を密にするとともに、教育委員会や地域、関係諸機関とも協同して解決にあたる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生活アンケートでの「学校が楽しい」「友達と仲良くしている」と回答する児童100%とする。	令和元年5月の生活アンケートでの「学校が楽しい」の結果は、74.5%。「友達と仲良くしている」の結果は、82.8%。100%には届かなかったが、多くの児童は、楽しい、友達と仲良くしていると答えている。	B	【課題】 多くの児童が、「学校が楽しい」「友達と仲良くしている」と肯定的な回答をしている。しかし、否定的な回答も、「学校が楽しい」で25.5%、「友達と仲良くしている」で17.2%おり、配慮していく必要がある。 【改善策】 ・品川区学力定着度調査時に行った、iチェックを分析し、個人の自己有用感や学級の特徴の把握を行い、学級経営の見直しを図る。
	・アンケートなどの結果に迅速に対応し、児童との面談を通して早期発見に努めている。	5月に生活アンケートを実施した。次回、アンケート結果を全教職員で共有して日々の生活指導に生かしていく。	A	
	・児童の課題や悩み、保護者の相談に真しに対応し、問題を解決している。	・児童の課題や悩み、保護者の相談に対しては、組織的に、迅速に対応できるようにしている。今後も管理職と連携をして対応していく。	A	
	・教職員が協力して問題解決にあたり、児童理解を深めたりする研修をしている。	夏季休業中に研修したことを全教職員に周知する。	A	
②	いじめの早期発見、未然防止に努め、いじめゼロを目指す。	平成30年度のいじめ事案は4件あったが、すべて解決している。	B	【課題】 平成30年度いじめの事案が4件あった。幸い、解決が図られたが、今後も、早期発見、未然防止に努めていく。 【改善策】 ・学年、副担任等、多くの目で児童を見ていき、早期発見、未然防止に努める。 ・生活指導連絡会で、情報を共有するとともに、事案発生時には、いじめ対策委員会で組織的に対応し、解決を図っていく。 ・スクールカウンセラー、巡回相談員を始め、HEARTS(品川学校支援チーム)などとも連携していく。
	・校内特別支援教育委員会の月1回の実施する。	4月、5月、8月に実施、特別な配慮を要する児童の現状や、校内体制について共通理解を図った。	A	
	・毎週金曜日放課後、生活指導連絡会を行い、児童の様子や情報交換を行い、共通理解する	できている。今後も継続していく。	A	
	・個別指導計画の作成、スクールカウンセラーや巡回相談の活用する。	できている。今後も継続していく。	A	
③	本校テーマ「自分も大事、友達も大事、認め合い」を大切にしたい言動が100%の児童に浸透している。	「自分も大事、友達も大事、認め合い」の合い言葉は浸透している。行動が伴わない児童が若干いるので、更に、指導していく必要がある。	B	【課題】 「自分も大事 友達も大事 認め合い」が言葉だけで終わらないようにしていく。 【改善策】 ・いじめ防止バッチを、土曜授業日に全校児童が着用する。その際、担任から、いじめ防止バッチの着用意義について、指導を行う。 ・人権標語・人権ポスター作成時に、人権課題について、心情を耕す指導を行う。 ・毎月25日の人権DAYや人権集会など、児童が中心となり、いじめ防止や思いやりについて全校に訴える。
	・月1回「人権DAY」では、人権感覚を育てる指導や活動を行う。	今年度は年間計画を作成し、月ごとに人権DAYに人権感覚を育てる指導を行っている。また人権集会で「きこえとことばの教室」の紹介を行うなどの活動を行っている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成